

令和6年度 学習分析事業 課題改善シート 三原市立幸崎小学校

【別紙1】

1 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	55.5	58.3	51.2	50.1	53.7
	本年度結果 偏差値平均	58.7	51.7	60.6	55.4	53.6	56
算数	前年度結果 偏差値平均	/	59.5	64.4	54.6	57.8	59
	本年度結果 偏差値平均	59.9	56.5	64.9	58.9	58.1	59.6
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	50.4	54.5	52.4
	本年度結果 偏差値平均	/	/	61.1	51.7	47.9	53.5
全体	前年度結果 偏差値平均	/	57.5	61.4	52.1	54.1	56.2
	本年度結果 偏差値平均	59.3	54.1	62.2	55.3	53.2	56.8

②全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数
前年度結果 (対果比)	65 (94.2)	58 (90.6)
本年度結果 (対果比)	76 (107)	69 (105)

2 令和5年度について

①調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて)	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)
<p>●国語では、詳細を読み取って解釈する(40.3%)、主題や構成を読み取る(36.2%)、目的に応じて書く(31.8%)、情報を選び構成を考えて書く(37.2%)の到達率が低く、特に読み取りに関する思考に課題が見られる。</p> <p>●算数では、分数の仕組み(25%)、表・棒グラフの読み取り(33%)、速さの問題(14%)、小数を分数で表す(38%)の到達率が低く、特に数量の関係に関する思考に課題が見られる。</p>	<p>●国語では、図表やグラフを用いて書き表し方を工夫する(14.3%)、文章を読んで自分の考えをまとめる(57.1%)、目的や意図に応じ自分の考えをまとめる(57.1%)の到達率が低く、特に書くことに関する思考に課題が見られる。</p> <p>●算数では、比関係を用いて式や言葉で記述する(42.9%)、台形の意味や性質を理解する(47.6%)、正三角形の意味や性質を理解する(9.5%)、割合について理解する(33.3%)の到達率が低く、特に変化と関係、図形に関する思考に課題が見られる。</p>

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○国語科は単元テスト・読むことに関する「思考・判断・表現」、算数科は単元テスト：全ての単元に関する「思考・判断・表現」の到達率を80%以上にする。</p>	<p>【自律的な学びの創造に向けた授業改善】</p> <p>①自律した学習者を育てるために、国語、算数、特別支援教育部会ごとに授業づくりを協議し、幸崎モデルを立案する。</p> <p>②ホワイトボードを活用した協働的なグループ学習を実施する。</p> <p>③思考スキル・シンキングツール、ICTや学習形態を自己選択、自己決定する場を授業の中で設定する。</p> <p>④全教諭が管理職による授業参観を実施する。</p> <p>【基礎学力の徹底】</p> <p>⑤国語科「読むこと、書くことに関する思考力」、算数科「数量の関係、変化の関係、図形に関する思考力」をつけるために、モジュール時間において各学級の実態に応じた活用型のプリント学習を行う。単元テストの到達率70%未満の児童には、職員で複数対応を行い確実な定着を目指す。</p>	<p>①1学期中に立案、実施</p> <p>②③④日々の授業、校内研修(月に2～3回)、模擬授業、研究授業(一人1回以上)において協議</p> <p>④月に1回以上</p> <p>⑤毎週月・火・木曜日のモジュール時間(国語科：月…低学年、火…中学年、木…高学年)</p>	<p>・国語科は単元テスト・読むことに関する「思考・判断・表現」、算数科は単元テスト：全ての単元に関する「思考・判断・表現」の到達率を80%以上</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○H-QUの結果、全学級「親和的なまとまりのある学級集団」にする。</p>	<p>【多様な学びの設定】</p> <p>①仲間意識や自己肯定感を高めるため、グループ学習を軸とした協働的な学び・縦割り班を軸とした自治的な学び・異学年交流を軸とした探求的な学びを設定し、PDCAで評価を行う。</p> <p>【めざす姿の明確化と振り返りの徹底】</p> <p>②学級全員で目標達成に向けて挑戦する意欲を高めるために、「学級チャレンジ」を設定し、定期的に振り返りを行う。</p> <p>③学級ごとに児童主体の自治的活動を行い、PDCAで評価を行う。</p>	<p>①学校行事、児童会活動、清掃活動、日々の授業</p> <p>②学級チャレンジの設定は月に1回程度、振り返りは毎日</p> <p>③学期に1回以上</p>	<p>・2回目のH-QUで全学級が「親和的なまとまりのある学級集団」(全学級で一次支援の数値が向上した上で)</p>

3 令和6年度について

①調査から明らかになった課題

【学力調査について】(NRTをうけて)
<p>●国語では、説明文・要点のまとめ(24%)、報告文・資料から書く(9%)、意見文の要約(14%)、手紙を書く・詩の説明(0%)の到達率が低く、特に読み・書きに関する思考に課題が見られる。</p> <p>●算数では、百分率・割引の値段(24%)、速さ・比較(29%)、折れ線グラフ・考察(27%)、目的に応じたグラフ(10%)の到達率が低く、特に数量に関する思考に課題が見られる。</p> <p>(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●国語では、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書く(47.6%)、漢字を文の中で正しく使う(42.9%)の正答率が低く、書くこと、漢字の定着に課題が見られる。</p> <p>●算数では、立方体の体積(14.3%)、速さについて言葉や数を用いて記述する(28.6%)、表から必要な数値を読み取り式に表す(47.6%)の正答率が低く、図形、変化と関係、データの活用に課題が見られる。</p>

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

重点取組(上記課題を踏まえたもの)	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
<p>【学力向上について】</p> <p>・まとまった文章を書くこと</p> <p>・長文の読み取り</p> <p>・情報と情報との関連付け</p>	<p>①全学年全教科等でのR80の実施(必須)</p> <p>②物語・説明文(問題文)の読みの理解のための、児童の思考を大切にした指導者の意図的なフシリシート</p> <p>③国語科を中心としたもの見方・考え方を意識させる、「幸崎トレジャーボックス」の取組み</p>	<p>①R80の書き方の例を、低・高と発達段階において提示し、毎時間児童のノートを3段階で評価する。手本となる児童のノートを月に2回以上教室に掲示する。</p> <p>②単元テストにおいて、国語科「読むこと」「思考・判断・表現」、算数科：全ての単元「思考・判断・表現」の到達率を80%以上にする。</p> <p>③「幸崎トレジャーボックス(言葉の力)」の取組みを通して、学期ごとに、児童が獲得した見方・考え方をホワイトボードに整理し、授業の中で活用する。</p>
<p>【学級・学習集団づくりについて】□</p> <p>・支持的風土の醸成</p> <p>・児童生徒が主体の絆づくり</p>	<p>①自分の考えを素直に表現でき、どんな意見も認め合える親和性の高い集団作り</p> <p>②目標達成に向けて挑戦する意欲を高める「学級チャレンジ」の設定と振り返り</p> <p>③児童主体の異学年、地域等、多様な人と関わる行事の充実</p>	<p>①毎時間、全員の児童が自分の考えを表現する場を設け、拍手や反応を通して認め合える雰囲気づくりを行う。2回目のQUで、全学級が一次支援の数値が向上できるようにする。</p> <p>②学級チャレンジの設定を学期に2回以上行い、毎日振り返る。</p> <p>③児童会主催の活動、清掃活動、地域の方と関わる活動等、児童主体の活動を学期に1回以上設定し、振り返りと次学期への改善を図る。</p>